

Secure Base と情動知能および内発的動機の関係性に関する研究

A Study of the Relationship between Secure Base and Emotional Intelligence and Intrinsic Motivation

山川 修

Osamu YAMAKAWA

福井県立大学 学術教養センター

Center for Arts and Sciences, Fukui Prefectural University

Email: yamakawa@fpu.ac.jp

あらまし：愛着理論で重要な Secure Base と情動知能の下位尺度との相関、および Secure base と内発的動機の下位尺度との相関を、質問紙により分析した。その結果、Secure Base により形成される「安心さ」は、情動知能の下位尺度である「自己の情動評価」「情動の調整」「情動の利用」の3つと、また、内発的動機づけの下位尺度である「自己決定感」との正の相関があることがわかった。また、全く違う視点でつづられている SOC（首尾一貫感覚）とも正の相関があることがわかった。

キーワード：Secure Base、情動知能、内発的動機、SOC

1. はじめに

自律的学習者を育てる上で Social and Emotional Learning (SEL)⁽¹⁾が重要になるのではないかと考えている。2020年度のJSiSEの全国大会において、SELにとって、信頼と内省と意味が重要になるというモデルを提唱した⁽²⁾。このモデルでは、Bowlbyが提唱する愛着理論⁽³⁾の Secure Base が、信頼、内省、意味に関連して形成または補強されると考えた（図1）。そして Secure Base の形成度合は、学習者の中にある「安心」の度合として測定できるのではないかと考え、現在、この安心の度合を測定するため、質問紙とウェアラブル・センサー等による心拍変動の分析を行っている。本発表では、愛着理論に基づく愛着スタイルの質問紙から「安心」の度合を計算し、それが、SELで修得されると考えられる社会情動スキル（Social and Emotional Skills）と関係する情動知能⁽⁴⁾の指標との関係性を分析する。また、最終的にはSELを通して自律的学習者の育成を目指すことを目的としているので、自律的学習者に重要な、内発的動機づけとの関係性も分析する。

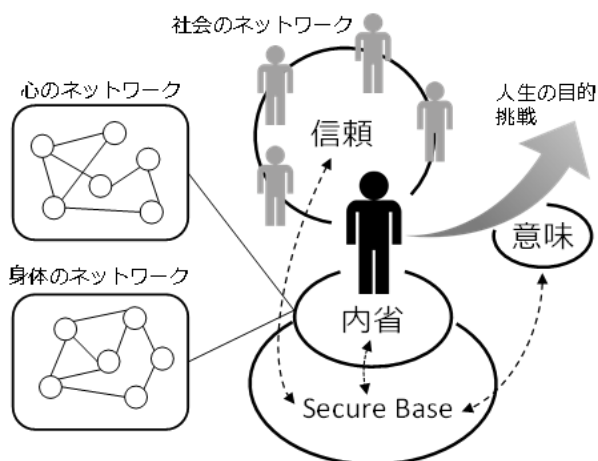


図1 内省、信頼、意味と Secure Base の関係

2. 測定方法

被験者10名にお願いし、愛着スタイル⁽⁵⁾、情動知能（J-WLEIS）⁽⁶⁾、内発的動機づけ（自己決定とコンピテンスに関する大学生用尺度）⁽⁷⁾、および SOC（首尾一貫感覚）⁽⁸⁾の質問紙に回答してもらい、同時に心拍計をつけたウェアラブル・センサー、および動画から心拍数をカウントするシステムによる心拍変動の計測を40分程度行った。被験者は大学生4名（年齢：20代前後）、社会人6名（年齢：30代～50代）で、全員女性であった。測定は2021年2月に大学の1室において2人ずつ、感染対策を施した上で行った。本発表では、このうち質問紙部分の分析結果を報告する。

愛着スタイルは、安定型、不安型、回避型、未解決型の4つの型に分類され、それぞれの型の得点のどこが多いかで判定される。ここで、安定型は愛着システムがバランスよく機能して対人関係において絆が安定している、不安型は人に受け入れられるかどうか最大の関心事なので相手に合わせて行動することが多くなる、回避型は親密な人間関係が重荷になり一定の距離を置こうとする。未解決型は過去に受けた愛着の傷を生々しくひきずっている。ここで安定以外の型は安心感が欠如している結果と考えられるので、今回、安定型の得点から他の3つの型の得点を引いたものを、その人が持つ「安心」の度合（安心さ）と定義した。この安心さと、情動知能、内発的動機づけ、および SOC（首尾一貫感覚）の下位尺度の間に相関があるかどうかを分析した。

今回測定した情動知能の指標（J-WLEIS）には、情動の調節、自己の情動評価、情動の利用、他者の情動評価の4つの下位尺度がある。「情動の調節」は自分の気持ちがコントロールできているか、「自己の情動評価」は自分の気持ちが理解できているか、「情動の利用」は、自分を励ましたり、やる気を高めることができているか、「他者の情動評価」は他者の気持ちが理解できているか、に關係する尺度である。

また内発的動機づけの下位尺度としては、有能感、有能欲求、自己決定感、自己決定欲求の4つである。参考文献(7)によると、有能感と自己決定感は自尊感情や自我同一性と正の相関がある。

SOC に関しては13項目で7件法の調査紙を利用した。今回、SOCの下位尺度としては、把握可能感、処理可能感、有意味感の3つである。

3. 分析結果

愛着スタイルから算出した「安心さ」と情動知能の下位尺度との相関をとったのが、表1である。

表1 安心さと情動知能の下位尺度の相関 (N=10)

	相関係数
情動の調節	0.657*
自己の情動評価	0.688*
情動の利用	0.777**
他者の情動評価	0.386

*p<0.05, ** p<0.01

次に、「安心さ」と内発的動機づけの下位尺度との相関を示したのが、表2である。

表2 安心さと内発的動機づけの下位尺度の相関 (N=10)

	相関係数
有能感	0.437
有能欲求	-0.223
自己決定感	0.805**
自己決定欲求	0.244

**p<0.01

愛着スタイルから計算した「安心さ」を Secure Base の形成度合として使うのは今回が初めてである。今までは、SOC（首尾一貫感覚）で代用をしていた。首尾一貫感覚は、健康になる要因分析から割り出されたものであるが、これから Secure Base の形成度合がわかるのではないかと考えていた。今回、愛着スタイルから「安心さ」を計算したので、安心さと SOC の相関を分析したものが表3である。

表3 安心さと SOC（とその下位尺度）の相関 (N=10)

	相関係数
SOC 全体	0.751*
把握可能感	0.725*
処理可能感	0.591
有意味感	0.819**

*p<0.05, ** p<0.01

4. まとめと考察

図1に示すモデルの Secure Base 形成の度合を測定するための指標として、愛着スタイルの4つの型の得点を使って、

$$\text{安心さ} = \text{安定型の得点} - \text{不安型の得点} - \text{回避型の得点} - \text{未解決型の得点}$$

という式により計算する安心さの指標を考えた。

この安心さの指標が適切かどうかを調べるため、情動知能、内発的動機づけ、SOCの各指標と安心さとの間の相関をとったところ、それぞれの下位尺度に統計的に有意に相関があるものがあつた。

情動知能では、他者の感情評価を除く3つの下位尺度との間に正の相関が確認された。また、内発的動機づけにおいても、自己決定感との間に正の相関が確認された。

首尾一貫感覚（SOC）は、愛着スタイルとはまったく違う観点からつくられた指標であるが、SOCの全体とも、下位尺度の把握可能感、有意味感とも正の相関があり、このことは、共通の要素があることを示唆している。そこで、この共通の要素として「安心さ」があるのではないかと仮説をたてている。

いくつかの活動によって、SOCが向上することはすでに確認している⁽⁹⁾ので、今後は、図1を実証的に確認するため、「安心さ」の指標を使い、内省、信頼、意味に関する活動により、安心さが変化するかどうかを検証していく。

また、「はじめに」に述べたように「安心さ」を測定するのに、心拍変動という生理的指標を使う研究も行っている⁽⁹⁾ので、質問紙による指標との関連性も今後調べていく予定である。

参考文献

- (1) <https://casel.org/wp-content/uploads/2019/12/CASEL-Competencies.pdf>
- (2) 山川修, "Social and Emotional Learning (SEL)において重要となる3要素に関する考察", 第45回教育システム情報学会全国大会講演論文集, pp.77-78 (2020).
- (3) Bowlby, L. Attachment & Loss: Vol.1. Attachment. New York: Basic Books, (1969).
- (4) Goleman, F. "Emotional intelligence: Why it can matter more than IQ?" Bentam Books, New York (1995). (土屋京子訳, EQ: こころの知能指数, 講談社)
- (5) 岡田尊司著, 「回避性愛着障害」, 光文社新書, (2013).
- (6) 豊田弘司, 山本晃輔, "日本版 WLEIS (Wong and Law Emotional Intelligence Scale) の作成", 奈良教育大学教育実践総合センター研究紀要, 20 巻, pp.7-12 (2011).
- (7) 桜井茂男, "自己決定とコンピテンシに関する大学生用尺度の試み", 奈良教育大学教育研究所紀要, 29 巻, pp.203-208, (1993).
- (8) アーロン・アントノフスキー著, 「健康の謎を解く」, 有信堂, (2001).
- (9) 山川修, "ダイアログを利用した社会人向け講座によるストレス対処能力の向上", 日本教育工学会第34回全国大会講演論文集, pp.159-160 (2018).